

～はぐくみコース～

<はぐくみ賞 6団体>

■ 特定非営利活動法人アサヒキャンプ（大阪）／10万円

「ネイチャーキッズ イン 朽木・フォーシーズン」

<p>団体概要</p>	<p>1953年に朝日新聞大阪厚生文化事業団が生駒山に開設し、日本初の体験教育を目的とする組織キャンプだったアサヒキャンプを前身とする。2003年に朝日新聞がキャンプ活動を終結したが、OB・OGの親睦団体から学生ボランティアが支援を受けて活動を続け、2006年に法人格を取得した団体である。</p> <p>創設時からの「創造と協同」の精神を受け継ぎ、近畿圏での野外活動を中心として、学生ボランティアの勉強会などの指導者育成事業、高島市森林公園朽木の森内のキャンプ場整備の施設管理事業など、幼児・青少年の育成活動を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、琵琶湖に流れ込む安曇川の源となる自然豊かな朽木の森で、年間を通して野外活動を実施するものである。</p> <p>対象は幼児から青少年で、活動内容によってグループ構成も変えていき、地元の里山でのお年寄りとの交流プログラムなども組み込み、家庭や学校では体験できない活動を通して、子どもたちの「生きる力」を育む。事前事後に大阪での活動も入れ、トレーニングを受けた学生ボランティアが生活をともにし、経験豊かな野外活動指導者が全体を統括する。</p>
<p>講評</p>	<p>従来は夏だけのキャンプであったが、本事業は一年間を通じた野外活動にブラッシュアップしており、新規チャレンジ性がある。また生活の場である大阪の活動を入れることで、継続性・持続性が上がり、メンバー間の親密性も深める効果を想定するなど、創意工夫も感じる。</p> <p>本アワードに向けて、資金使途も含めて非常によく練られた事業プランである。活動が終わる危機があっても、マンパワーでそれを乗り越え続けてきたサバイバーである当団体への敬意の意も込めて、はぐくみ賞の助成としたい。</p>

■ 天の川を美しくする会 天の川わんぱく村（大阪）／10万円

「天の川を美しくする会 天の川わんぱく村」

<p>団体概要</p>	<p>母体となった天の川を美しくする会では、交野の母なる川「天野川」を次の世代に美しい姿で残していくため、20年に亘って川の清掃活動に取り組んできた。この活動をする中で、自然を汚さないようにするためには、従来の活動に加えて、交野の自然と人を愛する人材を育成する必要があると考え、わんぱく村を開村することに至り2014年に設立された団体である。</p> <p>子ども向けの自然体験学習の企画運営、天の川清掃活動、大阪府民の森くろんど園地における片栗の花畑の維持管理などの活動を展開している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、小学生1～3年生の約80名を対象に、自然体験学習や清掃活動を行うものである。具体的には、農業体験や川の清掃活動・親水行事、大阪府民の森での野山の散策や片栗の花の整備、昔遊び、里山保全活動である。</p> <p>学校では学べない自然の中での体験によって、子ども達は山や森や川に親しみを感じると共に、一緒に活動する仲間達との関係を深めており、地域における循環型社会づくりに無理ない形で楽しく参画する仕組みとなっている。</p>
<p>講評</p>	<p>川の清掃活動を20年間実施してきた経験から生まれた、子ども達への自然体験学習である本事業の実現性を評価した。また、地域の要望を受けて、高学年向けの職業体験を計画するなど、効果と発展性にも期待がもてる。</p> <p>本アワードの助成を機に、より多くの子どもが参加できるような工夫をしてもらい、地域との関係をさらに深めてもらおうと共に、他の地域のモデルとなるような新しい形の人材育成にもつながることを期待したい。</p>

■ じいちゃんの手づくりおもちゃ（兵庫）／10万円

「尼崎市小田地区の市立小学校6校のこどもクラブに夏休みは水鉄砲。冬休みは凧作り&凧上げをして遊ぼう。」

団体概要	<p>手づくりおもちゃをテーマに、1997年からメンバー二人で色んなイベントに飛び入り参加することから始まり、尼崎三和商店街の月1回イベントへの依頼があり、多数のイベントの参加要請が増えたため2007年に団体として発足した。</p> <p>主な活動は、昔からの手づくりおもちゃの出前教室の年間25～30回ほどに渡る取り組みである。実施場所は、お祭りや公民館、保育園、小学校のこどもクラブと多岐に渡っており、活動領域は毎年広がっている。</p>
事業概要	<p>本事業は、尼崎市にある6つの小学校のこどもクラブの児童に対して、夏休みと冬休みの長期休暇に、手づくりおもちゃの出前教室を実施するものである。</p> <p>具体的には、夏休みには水鉄砲づくりと水遊び、冬季には凧づくりと凧上げを行い、青竹を鋸で切ったり、キリをつかって穴を開けたりなど、子ども達にとって初めての体験を提供する。これまで小学校2校で夏季休暇でしか対応できなかったが、それを6校に増やして冬季も開催することで150人の参加を目指す。</p>
講評	<p>シニア世代が小学生に手づくりおもちゃの出前教室を実施する本事業は、その社会性と実現性が評価された。また、出前教室をこれまでの2校から一気に6校に増やすために本アワードに応募しており、資金計画の妥当性と新規チャレンジ性の面からも評価できる。</p> <p>活動経験は長く、まさに地道な活動であるが、小さい団体がもっと頑張ろうとしている思いと時節を応援するはぐくみ賞の助成の主旨とも合致した、受賞にふさわしい事業であると言える。</p>

■ 子ども図書館の設立を考える会（滋賀）／10万円

『お話と音楽のひとつとき』－宮沢賢治作『雨ニモマケズ』『注文の多い料理店』

<p>団体概要</p>	<p>子どもの人格形成や成長過程において「読書」がもたらす影響の大きさに着眼し、読書環境を整えることで子どもの健やかな心を育もうと2000年に発足した団体である。</p> <p>「絵本を通じて子どもの中に豊かな感性と想像力を育てる」という目標のもと、絵本の部屋を開催したり、年に数回のお話会を催したりの活動をしてきた。主な活動は、毎年「お話と音楽のひとつとき」の開催であり、学校への出前公演もしている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、宮沢賢治の童話の読み聞かせと音楽をあわせたイベントを開催するものである。絵本原画をスクリーンに映し、生の音楽のコラボレーションで童話を読み聞かせ、プロの語り手・演奏家と絵本原画で子どもを物語の世界に深くいざなう。</p> <p>また、物語の手話通訳、スクリーンの絵の点字解説、盲導犬同伴席や車いす席を用意することで、障がいのある子どもやお年寄りなど、立場の異なる人々が同じ時間を共有し、お互いの理解を深め思いやりを育てることも目指している。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、絵本を切り口にした読み聞かせと音楽のコラボレーションというユニークな事業であり、これまでの実績から実現性が高く評価された。そして、誰でも参加できる場として、障がい者などの参加を促す仕組みも組み込まれており、細やかな配慮と創意工夫も感じられる。</p> <p>はぐくみ賞は小さな団体への応援を目的としたものであり、これからも地域で長く継続し、出前教室などに繋がることで活動の広がりを期待しての受賞としたい。</p>

■ チームWeB (兵庫) / 10万円
『障がい者スポーツ』体験交流会

団体概要	<p>姫路で行われた「車いすバスケットボール3オン3全国大会」の実行委員会・ボランティアを中心に、多くの子ども達に“障がい者スポーツの面白さと工夫”を知ってもらいたいとの願いから、2001年に設立された団体である。</p> <p>主な活動は、①学校への出前による体験交流会、②高校生以上には体験交流会とあわせた講演会、③一般市民への車いすバスケットボール教室、④他の障がい者スポーツ団体との協働による啓発活動で、総合的に活動を展開している。</p>
事業概要	<p>本事業は、車いすバスケットボールを題材として、障がい者スポーツの体験交流会を、兵庫県内の小・中・高校を対象にして実施するものである。</p> <p>具体的には、車いすの特徴と工夫などの説明を行い、参加者全員による体験乗車・ミニゲームで体感した後に、選手達とのディスカッションを行う。加えて、高校生以上には、「障がい者スポーツの面白さとその工夫」をテーマに講演会をすることで、問題提起と生徒達が自分で考えるきっかけをつくる。</p>
講評	<p>車いすバスケットボールの体験会を実施する本事業は、2014年度の出前教室52校と十分な実績から実現性、希望校が年々増えているという面から効果と発展性が高く評価された。また、全員体験・参加型企画と創意工夫もなされている。</p> <p>2020年の東京パラリンピックに向けて、障がい者スポーツの認知を地域・草の根から推し進めることも掲げており、本アワードの受賞によって、今後のさらなる活躍・継続を期待してはぐくみ賞としたい。</p>

■ 特定非営利活動法人 HAHATO. CO (京都) / 10万円

「LDなど読み書きに困りを抱える小・中学生のための

『学ぶ姿勢を育てる学習支援事業』

<p>団体概要</p>	<p>2009年より小学校の教室を借りて「ことばときこえの教室」に通級する子どもの保護者を対象に、情報共有・意見交換のための茶話会を実施し、その中で自閉症スペクトラム・ADHD・LDなどの「困り」を抱える子ども達への活動の広がり、ボランティア体制整備のため、2012年に法人格を取得した団体である。主な活動は、発達障がい児へのレクリエーションなどの居場所づくり・学習支援事業、保護者に向けた座談会・アドバイス・勉強会などである。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、読み書きの困りを抱える発達障がいの子どもの達に対して、小・中学校の放課後に隔週1回の学習支援を実施するものである。 ①質問することで分かるようになる経験を積むこと、②作文指導、③補助器具などの学習に使えるスキルの紹介、④九九や漢字の練習など学習や生活に伝えるタブレットアプリの紹介を軸としている。集団での学習活動が苦手な子どもに、少人数で質問しやすい学習環境を提供し、自ら学ぶ姿勢を育てる支援を目的としている。</p>
<p>講評</p>	<p>発達障がい児への地域での学習支援である本事業は、社会性・実現性が評価された。また、道具やタブレットアプリなどの活用で、紙に書くというスタイル以外の学習方法の提案も含まれており、創意工夫・効果と発展性の面でも評価できる。 活動規模の小さい団体ではあるが、はぐくみ賞の助成を機に、今まで以上に地域の教育機関・福祉機関と連携を強めてもらい、支援経験から得たノウハウを子ども・家族・学校に伝えていくことで、さらなる役割を發揮して欲しい。</p>

(50音順)